

山岳科学総合研究所 友の会会報

2014年10月 第14号



ウエストーン広場から晩秋の六百山から霞沢岳を望む

もくじ

第15回蝶ヶ岳現地研修会 報告 横田耕太郎	2
2014 上高地キッズキャンプ 報告 細萱 茂	3
上高地クエスチョン	4
編集後記	4

第 15 回蝶ヶ岳現地研修会 報告

なかなか泊りがけの研修会に参加できませんでしたが、今年は予め計画が決まっていたので、なんとか参加しようと予定を入れて参加しました。

自身では何度も歩いている蝶ヶ岳ですが、横尾からのコースを登るのは初めてで、内心わくわくしていました。しかし、当日朝はあいにくの天気、上高地BTに降り立った 7:15 頃は土砂降り、気分は最悪。それでも集合場所の横尾に着いた 9:20 頃には雨も上がりました。

10:45 先発組は島村さんを先頭に登り始めました。笹も刈られ、よく整備された道を 25 分ほど登ると槍見台到着。しかし雨雲に阻まれ槍ヶ岳を見ることはできません。さらに 30 分ほど登ると、「なんちゃって槍見台」の標識が！このほうがよく槍ヶ岳が見えるんだそうです。

急で人気がないと言われるコース。さらに岩が濡れていて歩きにくい！登り始めて 2 時間半ほど、後からのメンバーはどのあたりかなと思っていたところ、30 分遅れで出発した鈴木教授が追いついてきました。ここからは教授にくっついてグングン登っていきます。森林限界を越え、稜線に出ると目線には槍沢や涸沢の残雪が、眼下には梓川が見えます。蝶ヶ岳ヒュッテには 14:00 過ぎに到着。後から来る人・・・いや、アルコールを待ちます。待つこと 1 時間、なんちゃってビール 1 ケース・・・を背負った小林さんが登ってきました。待ってましたとなくなるビール。「考えてみたら、ひとり 1 缶ずつ横尾で持って上がればよかった」だって！



16 時から、蝶ヶ岳ヒュッテの神谷社長から貴重な写真を見せていただきながら、大滝山荘の事、蝶ヶ岳ヒュッテの歴史、自身が父の跡を継いだことなど、貴重な話を伺いました。

引き続き場所を移して始まった「蝶ヶ岳のお酒にいざ酔う会」。山小屋にいると思えない料理とお酒に酔いながら、楽しい時間が過ぎていきます。外は相変わらずの空模様で夕焼けも見ることができませんでした。夜も風が強く吹き続け、時折雨音に目を覚まさせられながら翌朝を迎えました。



翌朝はそのまま下山する人と、大滝山荘まで往復して下山する人に分かれる予定でしたが、そのまま徳本峠に抜けようという話になり、長堀尾根を下山する人を見送ってから、昨日踏んでない蝶ヶ岳頂上へ。穂高連峰の方から吹いてくる風は強く、飛ばされそうになります。自慢の眺望は雲の中でしたが、唯一浅間山から北信の方向だけ雲が切れてその姿をみることができました。蝶ヶ岳からお花畑の道を神谷社長も一緒に下り、ここで別れて一行は大滝山荘へと向かいました。晴れていれば素晴らしい展望が開けたことでしょう。でも代わりに美しい虹を眼下に望むことができました。





蝶ヶ岳を出発して 1 時間ちょっとで大滝山荘に到着。途中でゆっくりしていたわりにはハイペースです。話にあった池にイモリはいるのでしょうか？なにかいる様子ですが正体はわかりませんでした。

「DNAを調べよう」そうそう先日は湊沢ヒュッテで東城先生のお話を聞いたばかりでしたね。燃料?!を補給して全員で大滝山南峰で記念撮影。ちなみに「大滝山」と書かれた木の銘板、最初から壊れてましたよ。この後、徳本峠へ経て上高地へと下山しましたが、先頭と最後のメンバーでは 30 分以上差が開いたようです。鳴り出した雷も無事、全員下山できました。

横田耕太郎

2014 上高地キッズ・キャンプ 報告

ー2014 キッズキャンプに参加してー

去る 8 月 5、6 日、「豊かな自然のど真ん中、上高地でキャンプをしてみませんか。上高地の自然を感じ、夏休みの思い出を作ろう。」と募集した子どもキャンプの手伝いに出掛けた。

私は生き甲斐の 1 つに地域貢献をと思いがあることから、地元子ども会育成会(小学生 35 名)にボランティア会員として関わり、子ども行事や子ども野菜畑、日の長い時期に早帰りの水曜日午後の公民館開放など、細やかであっても地域教育の援助が出来ればと考えながら地域民と活動を続けている。

今年は、ここでの上級生 3 名を誘って参加した。

貸切バスには小学生 35 名が乗車して、途中、沢渡の「ナショナルパークゲート」に立ち寄って、国立公園の予習。両日共に継続的な雨降り模様であったので、河童橋からの穂高連峰は岳沢小屋が雲底。素晴らしい景色の感動はまたのお楽しみになってしまった。ところが、野外活動する時には運良くさして影響を受けずに済んだ。

明神までの自然観察、梓川での河原遊び、夕食・ファイアー、ナイトハイク(暗闇体験)。

朝の散歩、野外での朝食、名札作り、再びバスターミナルへの散策、ビジターセンター見学・昼食、下山までのひと時を梓川河岸で休憩、そして蒸し暑い松本への帰途。

無事に企画通りの行程を終えた子ども達からは、「楽しかった」との感想を頂けた。

① 体力差が著しい低学年児には、バスターミナル～明神片道 4km、荷を背負っての歩行が苦難のように見受け、せつかくの自然観察でも話題についてゆけないように感じてしまった。出来るならば、「歩く距離が長いことを条件」に、高学年生の募集をすれば、大正池～明神(8km)の散策が可能で、もっと雄大な上高地を楽しむことが出来るのではなかろうか。

② 大所帯である為班別行動を強いられているのだが、複数の 6 年生に仲間意識を助長させる役割を与えて、互に励まし合い、もっと会話を盛り立てる共助活動を活発にしたらどうだろうか。

③ 「子どもは遊びの神様」。滞在する明神では、大自然の中での遊び(課題)を自分達で企てさせてみてはいかがか。子ども達が自然に親しむ場を与えている(動機付け)のだから、大人が率先垂範を示してもよいが、課題を自ら設定し、新たな感激・価値観を味わう仲間交流を促すことが大切だと思う。

子ども達には、日常的ではない色々なことをいっぱい経験させることで、視野が広がり、興味を抱くと共に好きなことを見出すことに繋がれば、更に自分で考え、行動に移せる志を持って頑張ろう(忍耐力、集中力、そして持続力)を養うことができるのなら、豊かな気持ちと幸せを感じる成長(生活力醸成)に大いに役立てて欲しいと期待している。

また来年も参加して、自分も楽しみたいと願っている。

細萱 茂

?上高地クエスチョン?

今回ちょっと視点を変えて・・・

此花咲耶姫(コノハナサクヤノヒメ:通称)と言えば、富士山ですよね。ご存知富士浅間神社の主祭神です。

この神様がなんでこの写真と関係があるの？と思われるでしょう。

この祀りもの「化粧木」(けしょうぎ)というそうです。これは上高地トンネルの工事現場坑口に設けられたもので、他の場所で見たとある方もおいででしょう。さて、先ほどの此花咲耶姫ですが、この神様は女神です。富士山に限らず山には女神も住まわっていると伝えられています。

従って山での工事、特に山中を深く掘削するトンネル工事では、能う限りの安全対策を講ずるわけですが、女神である山の神に「化粧木」を捧げ、工事の無事完工を祈願するのだそうです。

因みに、本来この原木は工事現場付近で調達するものらしいのですが、ご存じ上高地では叶ったものを伐ることができないため、他所で調達したそうです。

日本の土木技術はトンネル掘削も含め、世界に冠たるものがあるわけですが、先進技術がありながらなお霊神を崇める、多神教民族とも云われる私たちの特質かもしれません。

このトンネル、平成 29 年春には完成する予定です。



編集後記

例年よりだいぶ早く上高地は紅葉の見ごろを迎えました。

上部の濁沢・槍沢方面の彩もいつになく早く、しかも短く、登山者をちょっとがっかりさせました。葉を落とした植物たちは今年の営みを終えました。

去る9月27日、突如として木曾御嶽山が噴火しました。紅葉の週末、絶好の登山日和。登山者で誰がああ噴火を予想できたでしょう。まさに青天の霹靂、一瞬で阿鼻叫喚の地獄になるとは。日が経つにつれ様々な動きがありますが、まずは亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。

上高地の南西に聳える焼岳。昭和37年水蒸気爆発をして以来平穏を保っています。その前が大正池を出現させた大正4年の爆発ですが、明治40年ころから活発な活動が始まったという記録があります。

おおよそ50年に一度噴火をしているわけで、そろそろといった感もあります。

御嶽山を教訓に、可能な限り突然の噴火で人命が損なわれることのないような方策を講じてほしいと願っています。

友の会の事業も、ほぼ予定通り多くの会員の協力をいただき、実施してまいりました。12月21日(日)は恒例の講演会と会員交流会が予定されています。追って詳細はお知らせしますが、ご予約いただければ幸いです。

一事務スタッフ紹介一

この度新しく事務を担当することになりました山口良子です。出身は神戸で結婚を機に松本(波田)に住み、現在家族5人と近くの義父母との7人で賑やかに暮らしています。自然豊かでゆっくりと時間が流れる信州が大好きで、この地で子育て出来ることに幸せを感じます。事務局では役に立つスタッフを目指しています。どうぞよろしくご挨拶致します。

山岳科学総合研究所友の会会報 第14号

発行日：2014年10月23日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp